

【GIGA×指導の工夫・改善】 端末で学びを見取り、即時フィードバック

第3学年 算数

数の表し方やしくみを調べよう（小数）

【めあてを設定する場面での手立て】

○授業の初めに問題と課題を確認。各自でルーブリックをもとにめあてを決定し、自分の言葉で入力する。全員と共有された表計算ソフトに入力するため、教師が内容をその場で把握でき、曖昧なめあてには、すぐに付け加え・修正をさせる。一人ひとりが、自分のゴールが何か意識できるようにする。

○本時では、「いろいろな見方で」と入力していた児童に「何個の見方を目指す？」と声をかけたり、「くわしく説明する」と入力した児童には、「詳しくってどう説明するの？」と口頭で確認したりした。毎時間、繰り返し修正を行う経験をすることで、短時間で具体的なめあてをたてることができる児童が増えてきた。

【ふりかえりを入力する場面での手立て】

○今日の学びを表計算ソフトに入力する。友だちとの学習の中で、自分とは違う考え方（見方）をしている人がいた場合は、それもふりかえりに記入させ、学びの深まりが実感できるようにする。浅いふりかえりにはその場で声をかけ、付け加えをさせる。今日の授業で何がわかったか、学び方は良かったか自分自身で学びをふりかえる力をつけていく。

○今回の学習では、学び方についての記述だけの児童に、「今日どんなことがわかった？」と学習内容についても付け加えるよう声をかけた。すると、その場で更につけ加える様子が見られた。

10時間目 3.7をいろいろな見方で表すと					
事前 ルーブリック	自分のめあて	いくつ の見方 ができたか な？	△1 先生チェック	事後 ルーブリック	時間をフル活用！ 選をフル活用 できた？
B	B: 3.7を2つ以上で見方で表すことができる。 A: 3.7を2つ以上で見方で表し、言葉や式で せつ明することができる。 S: 3.7がいくつでも言葉や式でせつ明する ことができる。			①学んでわかったこと 【一番たいせつだったこと】【めあてにたいして】 今日は～がわかった。（大切だと思った。）それは～だから。 今日は【 ～な見方 】を使った～だった。 ②学び方について 友だちとくらべてみてどうだったか 自分でえらんで学習してどうだったか 調べ方・まとめ方はどうだったか 今日の学び方は～ところが良かった。なぜなら～。 今日の学び方は～が良くなかった。だから次は～したい。	
B	3.7を2つ以上で見方で説明しよう。	2	☐	今日の算数では、3.7をどんな数かいろいろな見方で説明できた。たとえば、○+○で合わせたら○になるか 足す見方で説明できた。あとほかの人と話し合ったら 0.1の見方やいろいろな見方がわかった。	B
S	3.7を2つ以上で見方で説明し、違う数字でも 見方で説明しよう。	4	☒	見方がちがうひとりがいた。Sに向けて8.3をいろいろな 見方でやれた。今日の学び方は友だちに聞いたり友だ ちに教えたりできたのいいと思った。今日は0.1が 何個分かをを使って説明ができた。	S
	3.7を見方を使って詳しくしらべて2こ以上書 こう。	3	☐	今日は、説明を2こ以上することができたし自分とちが うかんがえをたくさん知ることができた。たとえば合 わせる見方のところまでは同じだったかきかたがら うがいた。学び方は、ともだちとやったらわからない ところがあるようになった。	A



次時には、自分が考えた見方と違う見方も使いながら1時間目に決めた自分の小数を説明する活動を行い、理解しているかを確認。

11時間目 たしかめよう 算数の目		
1時間目に自分がえらんだ小数をせつめいしよう！！	p27△1	たしかめよう
①36.8は、36と0.8をあわせた数。②36.8は、37から0.2引いた数。37より0.2小さい数。③36.8は、0.1を36.8こ集めた数。④36.8は、10が3こ1が6こ0.1が8こあわせた数。	☒	☒
36.6は36と0.6をあわせた数です 36.6は37から0.4引いたかずです 37より0.1小さい数 36.6は0.1を366個集めた数です 36.6は1が36個0.1が6個あわせた数です	☒	☒

【GIGA×指導の工夫・改善】 デジタルホワイトボードソフトで考えを把握し、個に合わせた指導を行う



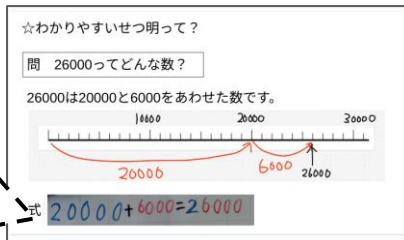
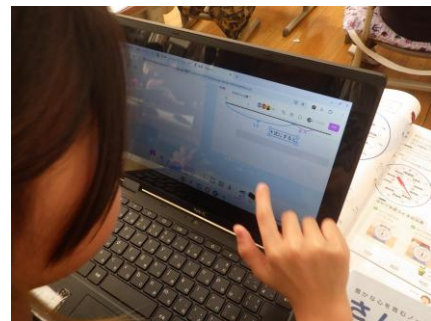
【考えを共有する手立て】

友だちの考えをいつでも共有できるように、デジタルホワイトボードソフトに考えを載せる。ノートやホワイトボードに解いた児童は、写真に撮って、考えを載せる。授業の後半で行うアップデートタイムでは、自分とは違う考え（見方）で説明してる人を探し、お互いの考えをアウトプットすることにより学びを深める。

【見取ったことをもとに、個に合わせて指導を行う】

○端末上で全員の学習の状況が把握できる。デジタルホワイトボードソフトで児童の学習の進み具合を見取り、それぞれに合った指導を行う。「〇〇さんが違う考え方をしていたよ。」と声をかけ、児童同士を繋げたり、自走が可能な児童には、ヒント動画やふりかえりスライドを見るように声をかけたりする。児童の様子を見取りながら教師が個別に修正をかけたり、ときには全体に話をし、軌道修正したりすることもある。

○今回の場面では、多くの児童がたし算を使った見方や0.1が何個分という見方はできていた。ひき算を使った見方をしていた人が少なかったため、「〇〇さんが違う見方をしていたから聞きにいらん。」と声をかけたことで、新しい見方に気づくことができていた児童もいた。また、ヒントとなる復習スライドの「26000がどんな数であるか。」という既習に戻らせることで、それを今回の学習に生かしている児童もいた。



Classroomに説明の仕方やヒントとなる動画・スライドを添付しておき、必要に応じて児童が確認できるようにした。児童が自走するための手立てを用意しておく。